

研 究 テ ー マ	訪問看護ステーションにおけるサービス改善に関する調査研究事業 訪問看護業務内容に即した報酬体系の提案のための資料作成
研 究 目 的	業務内容に即した訪問看護ステーションにおける報酬体系のあり方の検討資料を得るとともに、検討課題を明確にすることを目的とした
研 究 方 法	平成14・15年度「訪問看護ステーションにおけるサービス提供の在り方に関する調査研究事業」訪問時業務調査のデータを用いて以下の3つの分析を行った 1) 要介護度、支払方法による看護業務の比較・検討 2) 前2年間の問題提起に関連した追加分析 3) その他(疾患/サービスパッケージの可能性の検討等)
結 果 及 び 考 察	調査結果より、以下の3つの課題が示された 1) 現行の報酬制度上の時間区分では、同じ区分に業務構造の異なる利用者が振分られており、業務内容を十分に反映しているとは言えない。 2) 所定の時間内に収めるために、身の回りの世話、コミュニケーション等にかかる時間が影響を受けている。これらの業務について、利用者のニーズとの関係、効果等を実証的に検討する必要がある 3) 業務内容に見合った報酬体系を検討するに際しては、利用者の状態(基本属性、ADL等)が業務に与える影響を考慮する必要がある
研 究 助 成 金 名	平成16年度 厚生労働省老人保健事業推進費等補助金事業

研 究 テ ー マ	訪問看護ステーションにおけるサービス改善に関する調査研究事業 訪問看護ステーションのサービス提供実態把握による障害児・者に対するサービス充実の基礎資料作成
研 究 目 的	介護保険対象者の見直しにより見込まれる在宅障害児・者への訪問看護需要増への対応体制の整備に向け、現状と課題の明確を目的とした
研 究 方 法	障害児・者への訪問看護の提供実態に関して、以下の 5 点について事業所および利用者の状況を調査・分析した 1) 訪問看護ステーションの質的・量的受容力、2) ケアマネジメント、3) 他職種・機能との連携・協力、4) 利用の経緯、5) 訪問看護ニーズの内容、
結 果 及 び 考 察	調査結果を基礎資料として整備し、以下の課題が確認された 1) 訪問看護ステーションの受容力の拡充(職員充足・ステーション間連携による量的拡充、必要な能力・経験の明確化、研修体制の整備による質的拡充) 2) 制度環境等の整備(適切な訪問看護利用促進のためのケアマネジメント、長時間・高頻度利用ニーズへの対応、訪問場所についての検討等) 3) 1)、2)を検討する枠組みとして、障害児・者への看護提供内容についての再考
研 究 助 成 金 名	平成16年度 厚生労働省老人保健事業推進費等補助金事業